

平戸大橋の架橋効果に関するアンケート調査

大成ロテック(株) 正会員 河野正臣 長崎大学工学部 フェロー 高橋和雄
 長崎大学大学院 フェロー 犬束洋志 長崎大学工学部 正会員 中村聖三

1. まえがき

長崎県では離島が県土を占める割合が高く、離島の経済と住民の生活向上が課題となっていた。それを解消すべく、本土と離島、あるいは離島同士を離島架橋により結ぶ事業が展開されてきた。離島架橋が地域にもたらす効果を評価しておくことが今後の離島架橋の推進に必要である。そこで本研究では、1977年に完成された離島架橋である平戸大橋を対象に（図-1）平戸市で架橋効果に関する市民アンケート調査を行った。これにより、離島架橋による市民の生活の変化や、架橋事業の効果等を明らかにするとともに、今後の離島架橋の整備のあり方をまとめる。



図-1 平戸大橋周辺地図

2. アンケートの実施方法

2005年12月に、平戸市の有権者の2%に当たる360人を有権者名簿から抽出し、アンケート調査を行った。アンケートの配布・回収は郵送により行い、360部配布し、154部回収した（回収率42.8% 1月6日現在）。

3. 主な分析結果

3.1 利用頻度と目的

平戸市民が平戸大橋を利用する頻度を表-1、主な利用目的を表-2に示す。平戸市民が平戸大橋を使用する頻度は「月に2~3回」が26.0%、「週に2~3回」が18.2%、「週に4~5回か毎日」は18.1%、「ほとんど利用しない」は2.6%に止まった。これにより、平戸大橋の利用が一般的になっており、生活する上で必要となっているのがわかる。また、主な利用目的で最も多かったのが、「買物」で31.2%、次いで「通院」が18.2%だった。これは「業務」や「通勤」よりも頻度が高い結果となった。本土には佐世保市が近くにあり、品揃えの豊富な量販店や、充実した施設の病院があるためである。

3.2 平戸大橋のありがたさ

今回のアンケートの中に、「平戸大橋を利用して橋のありがたさを感じたことがありますか」という設問を設けたところ、「ある」と答えた人が94.0%となった。どんなときに橋のありがたさを感じたのか質問した結果を表-3に示す。結果は表-2と同じように、「買物」が41.6%、「通院」が33.1%と、上位を占めている。またこれに加えて、「早朝・深夜の利用」が42.2%となっている。これらはいずれも生活の利便性を示すものである。平戸大橋の架橋によって、本土

表-1 利用頻度 N = 154

項目	(%)
ほとんど毎日	11.0%
週に4~5回	7.1%
週に2~3回	18.2%
週に1回	15.6%
月に2~3回	26.0%
月に1回	9.1%
年に1回	9.1%
ほとんど利用しない	2.6%
N.A.	0.6%
無効	0.6%

表-2 主な利用目的 N = 154

項目	(%)
買物	31.2%
通院	18.2%
業務	14.3%
通勤	9.7%
知人訪問	7.1%
観光・レジャー	5.2%
通学	1.9%
その他	0.6%
ほとんど利用しない	5.8%
N.A.	1.3%
無効	4.5%

キーワード：離島架橋、アンケート調査、平戸大橋、架橋効果

連絡先：〒852-8521 長崎市文教町1-14 長崎大学工学部社会開発工学科 Tel095-819-2610 Fax095-819-2627

との交通アクセスが向上したことがこの回答から読み取れる。

3.3 架橋後による効果の評価

平戸大橋の様々な効果を平戸市民が感じているはずである。「平戸大橋の架橋による効果を評価してください」と聞いた結果を図-2に示す。ここでは生活の利便性の向上や安心感などといった住民の生活に関する効果が高く評価されている。しかし、「人口の流出防止」、「企業の誘致」の設問に対しては半数以上が「効果なし」と答えている。離島架橋の当初の目的は、人口の増加や企業の誘致、観光客の増加などの経済効果に重点が置かれていた。しかし、実際には人口の流出防止や企業の誘致の効果を平戸市民が感じていない。これは平戸市の各種の統計が示すデータと一致している。

3.4 離島架橋の管理、今後の架橋の進め方

平戸大橋では現在、管理費として100円の通行料を徴収している。これに対してどう思うかを質問した結果、「当然である」が37.0%、「止むを得ない」が50.7%、「反対である」が9.7%だった(図-3)。料金徴収に止むを得ないも含めて協力的な回答が多い。反対の理由として、「国道として国が管理すべき」、「使途が不透明」、「十分元は取ったはず」などの意見が聞かれた。また、今後の離島架橋の進め方について質問をした結果を表-4に示す。「架橋は優先順位をつけて、絞り込んで架橋すべきである」と回答した人が51.3%と、全体の半数以上を占めた。なお、離島架橋の設計に当たっては、交通量の増大、大型車両の増加などの人口や産業の発展を前提とすべきという意見が多く、交通量や加重の低減などによるコストを縮減した架橋には否定的であった。

表-3 橋のありがたさを感じたとき

N = 154 (複数回答)

項目	(%)
早朝・深夜の利用	42.2%
買物	41.6%
通院	33.1%
業務(営業、打ち合わせ等)	19.5%
知人訪問	18.2%
急病	16.9%
観光・レジャー	14.3%
通勤	13.0%
通学	13.0%
帰省	9.7%
その他	2.6%

表-4 今後の離島架橋の進め方

N = 154

項目	(%)
架橋は優先順位をつけて、絞り込んで架橋すべきである	51.3%
積極的に架橋すべきである	28.6%
架橋以外の方法によるべきである	11.7%
その他	0.6%
N.A.	7.8%

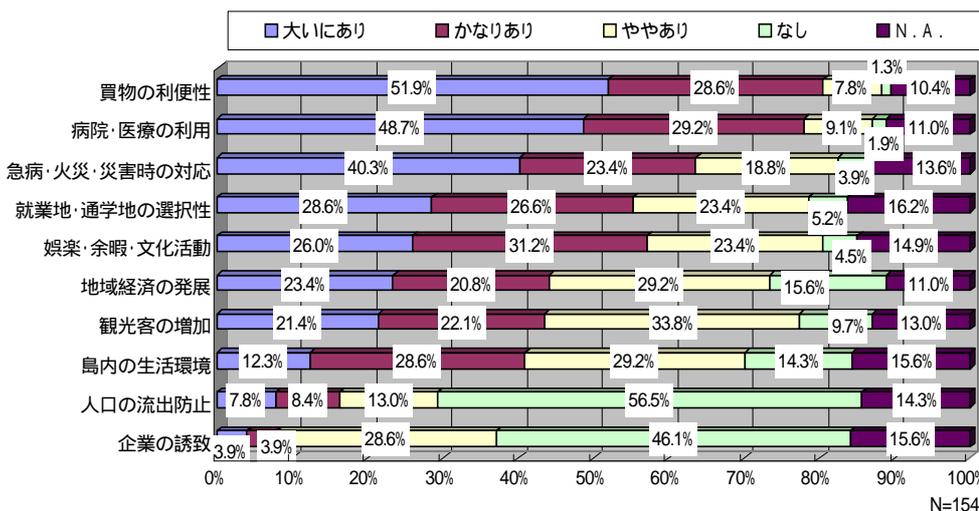


図-2 平戸大橋の建設による効果

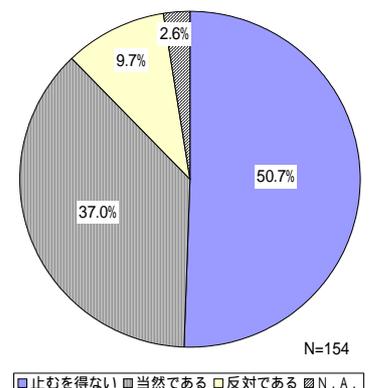


図-3 通行料徴収について

4. まとめ

今回の調査対象である平戸大橋のような離島架橋では、本来の架橋による効果のほかに、市民の生活環境の向上などをどのように評価して事業選択基準に盛り込むかの検討が必要である。

謝辞

アンケート調査の実施に際して平戸市の方々に多大なご協力をいただいたことに厚く御礼申し上げます。